



1962年（昭和37年末）59歳  
愛孫由喜子さんをおぶって

はいつか死ぬ。世の中にこれほどはっきり決まったことはない。それにもか  
かわらず、ふだんこのことを自覚して、毎日を生きている人間がどれだけいる  
だろう。」と言って、入院の前日まで仕事を続けました。

十一月一日、富三は、これ以上はむりであるという仲間のつよいすすめによ  
って入院することになりました。そして、翌年  
の三月、「自分の病気も、来るところまで来た  
ようだ。」と、もらすほど苦痛がはげしくなっ  
てきました。そして、昭和四十八年四月二十七日、  
午前三時二十分、「止まってはならない、動くん  
だ。」の言葉を最期に、亡くなりました。  
七十歳と二か月、二十三日の生涯でした。死  
因は、「肺ガン」でした。それは、「静かな眠  
りについた。」という言葉のような死でした。偉  
大な医学者であった富三も、病気には勝てませ  
んでした。日本はおろか世界中の人におしまれ  
ながら、数々の功績を残して、太陽の没するよ